

## 「わかる」系動詞の使い分けをマスター！

これが  
使い分けの  
決め手！

日本語の「わかる」と英語の **understand** の違いを知ることが使い分けの第一歩！

Q: 次の日本語を英語で言ってください。

- ① 広島を初めて訪れて、平和の大切さがはっきりとわかった。
- ② 彼の顔はすぐにわかったが、名前は思い出せなかった。
- ③ 彼女はクラシック音楽がわかる年齢だ。

[**appreciate / recognize / realize**]

## 解 答

- ① When I visited Hiroshima, I keenly **realized** the importance of peace.
- ② I **recognized** his face at once, but I couldn't remember his name.
- ③ She is old enough to **appreciate** classical music.

## 使い分けのポイント

「わかる」を表す英語は状況によってさまざまですが、まず思い浮かぶのは、**understand** や **know** でしょう。**understand** は、**You don't understand!** (僕の気持ちをわかってくれない、状況がわかっていない) のように、「状況・人の気持ち・物事の意味・仕組み・理由などを理解する、了解する」という意味です。「理解する、了解する」という意味では、日本語の「わかる」と英語の“**understand**” はほぼ同じですが、日本語の「わかる」は、「分かれる⇒他とはっきりと区別できる⇒理解できる」と変化したので、「区別できる」「見つけ

る」「判断できる」などの意味も含まれますが、英語の“understand”にはそのような意味はありません。したがって、**You can never tell when a disaster happens.**（災害はいつ起こるか分からない）とは言えますが、**You can never understand when a disaster happens.**とは言えません。これに対して **know** は、**I knew it!**（やっぱりそうか）、**I don't know what you mean.**（おっしゃることがわかりません）のように、「経験や知識からある事実や状況を知っている、わかる」という意味です。

本問①は、「今まであやふやであったものが、現実のものとしてリアルにはっきりわかる」というニュアンスを出したい場合に使う **realize** がぴったりです！

本問②は、「以前に知っていたものだとなる」場合に用いる **recognize** が最適です。**re**（再び）+ **cognize**（知る）というつくりから、物事や出来事を「再確認する」感じが出て、「ああ、知ってる、聞いたことある、見たことある！」という場合に使えます。さらに「物事存在や事実を認める」へと意味が広がり、「認識する」という用法があります。

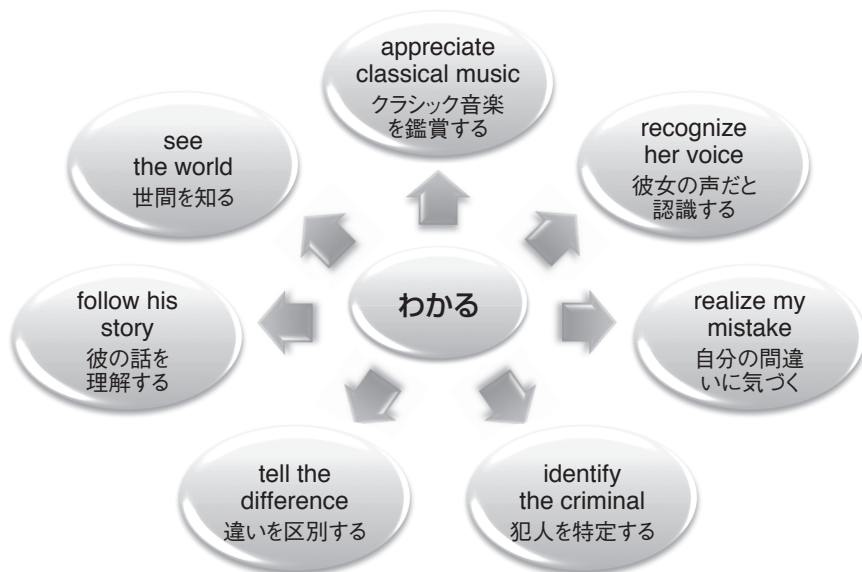
本問③は、「クラシック音楽がわかる」のように、良いものを鑑賞するといったニュアンスを出したい場合に用いる **appreciate** がぴったりです。**ap**（～に）+ **preciate**（価格をつける）というつくりから、「ものごとの価値や良さを正しく理解する・評価する」という感じが出せるのです。

「わかる」はこれらの語だけですべてを表現できないので、ライティングやスピーキングの際には、『何を』どうわかるのか』によって単語を使い分けていくことが大切です。

例えば、**tell** は「きっぱりと断言する⇒違いがわかる、区別できる」という意味から、**Can you tell me the difference?**（違いがわかりますか）のように使い、**see** は口語的で「自然に物事の本質・原因がスーッと見えてくる」感じから、**Can't you see he's taking advantage of you?**（彼に利用されているのがわからないの？）のように使い、**get** は、まさに口語で「話のポイントや状況・理由などをすぐにつかむ」という意味で、**I don't get it.**（腑に落ちないな）のように使います。また、**follow** は「（話などに）ついて行く」から「相手の話や説明がわかる」という意味になり、**Sorry, I don't follow you.**（すみません、おっしゃっていることがわかりません）のように使い、**catch** は「動いているものを捕まえる」から、**I didn't catch your name.**（あなたの名前が聞き取れませんでした）のように使います。さらに、**find** と **figure** は **out** とセットで使って、**find out** は「（会

話・経験などから) ~だとわかる・明らかになる」という意味から、**You'll find out.** (そのうちわかるさ) のように使い、**figure out** は「考えて答えや解決策を見つけ出す」という意味から、**I can't figure out how to solve the problem.** (その問題をどう解決したらよいかわからない) のように使えます。

一目でカンタン理解! 「わかる」系動詞の使い分けMAP!



## 「わかる」を意味する語のコロケーションを Check!

	the fact	the meaning	his feelings	the music	the mistake
<b>understand</b>	○	◎	○	◎	△
<b>realize</b>	◎	◎	○	×	◎
<b>recognize</b>	◎	◎	◎	△	△
<b>appreciate</b>	◎	○	○	◎	×
<b>identify</b>	△	◎	◎	△	○

◎は使用頻度が圧倒的に高いもの、○は使用頻度が高いもの、△はあまり使われないもの、×はほとんど使われないものを示しますが、たとえば「音楽がわかる」の場合、**appreciate**>**understand**>**recognize**>**identify** [the music] の順に使われますが、**realize** the music はほとんど使われません。



appreciate the painting



recognize him